

## 第24回JACR学術集会 開催報告

猿木 信裕 第24回学術集会会長、理事

群馬県衛生環境研究所

平成27年6月10日、11日の両日に群馬県前橋市で第24回学術集会を開催しました。梅雨の時期の開催となり、雨を心配しましたが、何とか天気持ちました。皆様の日頃の行いが良かったお陰と感謝いたします。当初会場として予定していた昭和の風情を残す群馬会館は空調の不具合が懸念されたため、会場を前橋テルサに変更しました。

群馬県地域がん登録は平成6年にスタートし、がん対策推進条例の成立、住民基本台帳法の改正により、現在は住基ネットによる生存確認調査を行っています。また、がん対策基本法の成立、拠点病院における院内がん登録の義務化等により、全国的に地域がん登録への届け出数が増加し、登録精度も急速に良くなっています。平成25年12月、「がん登録等の推進に関する法律」が成立し、平成28年1月から全国がん登録がスタートします。そこで、今回のテーマは「がん登録の新たな展開」とさせていただきます。



会長あいさつ

10日のがん登録担当者研修会には180名、11日の学術集会には186名、情報交換会には131名の皆様にご参加いただきました。ご来賓として茂原璋夫副知事始め、多くの方々にご祝辞を賜りました。

1日目は行政担当者、実務担当者向けにがん登録担当者研修会を開催し、その後、国立がん研究センター西本寛部長に、「全国がん登録の最新情報」についてご講演いただきました。政省令がまだ公表されていませんでしたが、全国がん登録の現状と課題について議論が進みました。

2日目の学術集会では、会長講演「がん登録の進化」、招請講演として群馬大学大野達也教授による「これからのがん医療における重粒子治療の役割」、伊藤ゆり氏の学術奨励賞受賞講演、教育講演として国立がん研究センター松田智大氏の「世界67カ国のがんの生存率」、学術委員会企画として「新法

に合わせた院内がん登録の深化と活用」をテーマにシンポジウムを組み、5名のシンポジストをお迎えして、全国がん登録に向けた院内がん登録の役割についてディスカッションしていただきました。学術ポスターとして22演題、登録室紹介ポスターとして11演題の発表がありました。今後のがん登録同士の情報共有の重要性が認識された学術集会となりました。



学術委員会企画シンポジウム

今回の学術集会開催に向け、県保健予防課がん対策推進室、健康づくり財団、がんセンター関係者による実行委員会を組織し、準備を進めてきました。富岡製糸場の世界遺産登録、ぐんまちゃんのゆるキャラグランプリ1位獲得、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」の放映など、群馬県の知名度も上がりつつあり、群馬に来ていただく皆様に、群馬のおもてなしの心でお迎えしよう、趣向を凝らしました。

がん登録担当者研修会後の情報交換会では群馬県産の食材、群馬の地酒をご用意しました。入り口ではぐんまちゃんがお迎えし、多くの皆様の写真に収まりました。ジャズ演奏に始まり、関係者のご挨拶、余興、情報交換、最後は全国がん登録の成功に向け、実務担当者の気持ちを表す替え歌を皆で歌い、大いに盛り上りました。

この学術集会では多くの関係諸団体の御後援をいただきました。また多くの企業、団体からも御協賛、御寄付をいただきました。皆様の御協力のお陰で、第24回学術集会を無事終了することができました。本当にありがとうございました。

来年の金沢での学術集会の盛会をお祈りしています。